

Title	図書館総合展での教育支援・学習支援に関する発表
Author(s)	久保山, 健
Citation	大学の図書館. 31(1) p.6-p.8
Issue Date	2012-01
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/25943
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

.....
特集：図書館総合展ア・ラ・カルト 2011

図書館総合展での 教育支援・学習支援に関する発表

久保山 健

.....
本稿では、私が図書館総合展にて発表した内容やそのフォーラムについての概要を記すと共に、図書館総合展を皆さんが支えるアイデアを記述します。

■フォーラムについて

私が発表したフォーラムは丸善(株)主催のもので、テーマは「大学図書館における教育支援・学習支援の動向と事例～大学図書館マネジメントの観点から将来のヒントを探る～」というものでした。

主な発表者は、私と野末俊比古先生（青山学院大学 教育人間科学部 准教授）の2名でした。

テーマ名称は関係者の間で相談して決めたものです。「教育支援・学習支援」というキーワードについても議論がありましたが、“学習”だけでなく、“教育”も支援すべきだという観点でそのようなものになりました。また、検索サイトでヒットする可能性も考慮しました。

■概要

関心の高いテーマのせいか参加者の多いセッションとなりました。会場は満席で200名以上の来場者がおられたのではないのでしょうか。フォーラムの2週間ほど前には受付終了となっていました。

フォーラムの中では、最初に25分間ほど私が報告しました。その後、丸善担当者から

創価大学における学習支援組織の事例報告がありました。

最後に野末先生からイギリス、シェフィールドでの事例紹介など教育支援・学習支援についての報告がありました。

■私の発表概要

タイトルは、
「大阪大学総合図書館における学習支援の取り組み：場所の提供と、コンテンツの商品化」としました。

発表内容は次のようなものでした。

(1) 増加した入館者数・貸出冊数の身分別増加率の比較を行いました。その結果、学部生の伸び率が高かったこと、場所としての利用が相対的に増えているのではないかということが分かりました。一方、ラーニング・commonsの席数は全体の割に満たないため、それらの数値の伸びは複合的な要因があると思われる。

また、グループ学習のための席数が不足していることや、ニーズや現状を把握するための観察調査、グループ学習を促進するための場所の設計についての課題を指摘しました。

(2) 学習支援企画の事例紹介

当館の学習支援企画「レポートの書き方講座」「オンデマンド・ミニレクチャー」「論文の書き方／文献の読み方プチゼミナール」などについて、「商品化」や「事業化」、「自己イメージの変化」という切り口で事例紹介を行いました。

■個人的な感想

参加人数の大きさに責任も感じつつ、控えめに「商品化」というキーワードを使いました。そうすると、終了後に、その点に共感してくれた方が複数いて、たいへん勇気づけられました。

意見交換の時間の短さなど広がりやや小さかったことも反省としてあります。主催者側も次に展開したいというお考えもあるようですので、私もできる範囲で協力させてもらいたいと考えています。

なお、私の発表資料は、こちらに掲載されています。

<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/meta-bin/mt-pdetail.cgi?cd=00042066>

■図書館総合展を支えよう

日本最大の図書館関連イベントが参加費無料という形で行われていることに驚き、ないし不思議さを感じたことはありませんか（一部のフォーラムを除く）。推測ですが、ブース出展している各社が実質的な協賛として運営費を支えているのではないのでしょうか。

一方で、決して楽ではない台所事情もあると聞くこともあります。

しかし、参加される皆さんのちょっとした心がけで図書館総合展の財政事情を支えることが、きっとできるはずです。

(1) ブース巡りをしっかりと

ブース出展者は、商品の宣伝、顧客の反応、顧客とのつながりなど、一定の目的のために、ある程度の負担をしてもブース出展するでしょう。だとすると、来場者があまりブースに来れないと、主要な出資者であるブース出展者のメリットは小さくなります。出資者がメリットは小さいと感じたとすると、ブース出展に消極的になり、財政事情や、図書館総合展自体の魅力に影響が出るでしょう。

そのため、参加される皆さんにはブース巡りもしっかりとさせていただきたいと感じます。資料を受け取る、少し話を聞く、感想や自館の事情を少し話す……そういったことで

もよいのではないのでしょうか。ブース巡りしていると仕事上のヒントになることも得られたりするものですよ。

(2) 飲食クーポンをしっかりと活用

今回の会場で、関内エリアの飲食店で使用できるクーポンセットのチラシが配られていました。そのクーポンを持参すれば、例えば、ドリンク一杯無料などの特典が得られるものです。土地勘もあるアカデミック・リソース・ガイド(株)の岡本真さんが中心に作られたものようです。

もしどこかで飲食する機会があるなら、そのクーポンが使用できるお店を選択してはどうでしょうか。何か特別なことをせず、自分もメリットを受け、図書館総合展を支えることができます(次回にもこのようなクーポンがあればという条件付きですが)。

そのクーポンを使用する人が増えれば、地域の中での図書館総合展の位置付けが高くなるはずです。“お金を落としてくれる”イベントとして認識されるということですが、図書館総合展というイベントが地域の中に受け入れられると、図書館総合展の価値がきっと上がります。そうすると、地域にも支えられるイベントとなり、有形無形に発展のきっかけにつながるはずです。

■まとめ

以上、私の発表概要と、図書館総合展を支えることについて、書いてきました。今後も図書館総合展などを通じて、経験の共有ができるイベントが続けられるよう、がんばりましょう。

(くぼやま・たけし/大阪大学附属図書館)